

# Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/006411

International filing date: 25 March 2005 (25.03.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP  
Number: 2004-105929  
Filing date: 31 March 2004 (31.03.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 14 April 2005 (14.04.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland  
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

25. 3. 2005

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日            2 0 0 4 年   3 月 3 1 日  
Date of Application:

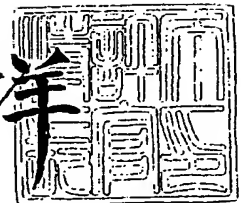
出 願 番 号            特 願 2 0 0 4 - 1 0 5 9 2 9  
Application Number:  
[ST. 10/C]:            [ J P 2 0 0 4 - 1 0 5 9 2 9 ]

出   願   人            昭 和 電 工 株 式 会 社  
Applicant(s):

2 0 0 4 年 1 2 月 2 7 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小 川 洋



出証番号   出証特 2 0 0 4 - 3 1 1 8 1 5 3

【書類名】 特許願  
【整理番号】 SDP4973  
【提出日】 平成16年 3月31日  
【あて先】 特許庁長官 今井 康夫 殿  
【国際特許分類】 C08B 37/00  
A61K 7/00

【発明者】  
【住所又は居所】 神奈川県川崎市川崎区扇町 5-1 昭和電工株式会社内  
【氏名】 蒲池 元昭

【発明者】  
【住所又は居所】 千葉県千葉市緑区大野台一丁目 1 番 1 号 昭和電工株式会社 研  
究開発センター内  
【氏名】 蒲池 晴美

【発明者】  
【住所又は居所】 北海道札幌市南区真駒内泉町 2-1-8-206  
【氏名】 覚知 豊次

【発明者】  
【住所又は居所】 北海道札幌市西区八軒 5 条西 10 丁目 1-41-110  
【氏名】 佐藤 敏文

【特許出願人】  
【識別番号】 000002004  
【住所又は居所】 東京都港区芝大門一丁目 13 番 9 号  
【氏名又は名称】 昭和電工株式会社  
【代表者】 大橋 光夫

【代理人】  
【識別番号】 100081086  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 大家 邦久  
【電話番号】 03(3669)7714

【代理人】  
【識別番号】 100117732  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 小澤 信彦

【代理人】  
【識別番号】 100121050  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 林 篤史

【手数料の表示】  
【予納台帳番号】 043731  
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】  
【物件名】 特許請求の範囲 1  
【物件名】 明細書 1  
【物件名】 要約書 1  
【包括委任状番号】 0213106

## 【書類名】特許請求の範囲

## 【請求項 1】

糖類を構成単位とする多分岐多糖を骨格とし、前記多分岐多糖の水酸基 (OH) の少なくとも一つが OR (R は、水素原子、炭素数 1～30 の炭化水素、またはヘテロ原子を有する炭素数 1～30 の炭化水素を表わす。) で置換された多分岐多糖誘導体を含有することを特徴とする皮膚外用剤。

## 【請求項 2】

骨格となる多分岐多糖が、無水糖及び／または無水糖の水酸基 (OH) の少なくとも一つが OR (R は、水素原子、炭素数 1～30 の炭化水素、またはヘテロ原子を有する炭素数 1～30 の炭化水素を表わす。) で置換された無水糖誘導体をモノマーをとする重合体である請求項 1 に記載の皮膚外用剤。

## 【請求項 3】

無水糖または無水糖誘導体の無水糖部分が、1, 6-アンヒドロ糖、1, 4-アンヒドロ糖、1, 3-アンヒドロ糖、1, 2-アンヒドロ糖、及び 5, 6-アンヒドロ糖からなる群から選択される少なくとも 1 種である請求項 2 に記載の皮膚外用剤。

## 【請求項 4】

重合体が、カチオン重合あるいはアニオン重合により得られたものである請求項 2 に記載の皮膚外用剤。

## 【請求項 5】

多分岐多糖の分岐度が、0.05～1.00 である請求項 1 に記載の皮膚外用剤。

## 【請求項 6】

多分岐多糖誘導体の含量が 0.1～80 質量% である請求項 1～5 のいずれかに記載の皮膚外用剤。

## 【請求項 7】

請求項 1～6 のいずれかに記載の皮膚外用剤を含有してなる化粧品。

【書類名】明細書

【発明の名称】皮膚外用剤

【技術分野】

【0001】

本発明は新規な皮膚外用剤に関する。さらに詳しく言えば、皮膚の潤いと張りを保つ効果を有する、多分岐多糖誘導体を含む皮膚外用剤に関する。

【背景技術】

【0002】

皮膚外用剤の中で皮膚の潤いを保つ効果を有する化合物として保湿剤が用いられることが多い。保湿剤は水分蒸発を防ぎ、皮膚表面の水分の調整をして、潤いと共にしっとり感を与える目的で皮膚外用剤に配合されている。皮膚角質層の水分量は、外界からの多様な刺激からの防御機能に密接に関係し、皮膚の老化防止、潤い、滑らかさなどの感触に大きな役割を果たしている。この角質層の水分保持は通常NMF (Natural moisturizing factor; 天然保湿因子) と皮脂膜によってコントロールされているが、老化もしくは外界からの刺激などでその機能が容易に低下することから、その保湿成分を補うことは皮膚外用剤、特に化粧料の大切な効能の一つである。皮膚の水分を補う保湿成分としては、生体成分と同じか、類似の成分が注目され、応用されるようになってきている。これらには、アミノ酸、ペプチド、タンパク質、糖、多糖、脂質、糖タンパク質などがある。

【0003】

例えば、アラニルグルタミンのようなジペプチドを配合した化粧料 (特開平8-325131公報; 特許文献1)、植物性グリコーゲンのような糖類を配合した化粧料 (特開平11-180818公報; 特許文献2)、さらには植物グリコーゲンにムコ多糖を同時に配合した化粧料 (特開2001-89381公報; 特許文献3) が知られている。しかしながら、アミノ酸は使用感が重く、肌へのおさまりが悪いなどの欠点があり、ジペプチドのようにしても低分子化合物で溶解性が高い場合には、皮膚表面に塗布された皮膚外用剤から容易に溶出してしまう欠点がある。また、グリコーゲンやムコ多糖などの多糖類は、水分保持量が高く、また肌になじみがよい原料として配合されることが多いが、これら多糖類は一般に直鎖状であり、乾燥時には逆に皮膚に対する不快なツッパリ感を生じるために、皮膚外用剤の含有物として使い難い欠点がある。またこれらの化合物を配合した化粧料は、気温の寒暖、空気の乾燥湿潤の変化、肌の発汗に対して、肌に必要な潤いと張りを十分な時間保つには至っていない。更には、微生物由来の多糖を用いた水性化粧料 (特開2002-53426公報; 特許文献4) もある。しかしながら、これら天然物由来の多糖は、複数種の単糖から構成され、その組成比は一定でなく、かつ構造も一定でないために品質管理が難しく、また化粧料においてもしばしば凝集構造を形成して成分を不均一化してゲル化や沈殿を生じ、またそれを皮膚に塗布した時に不快な感触を与えるなどの欠点がある。その他の保湿剤として、グリセリン、プロピレングリコール、ブチレングリコールなどの多価アルコール類も用いられているが、これらは水分を保つ働きばかりでなく、使用感にも大きく影響する。

【0004】

また、コラーゲン、ケラチンなどのたんぱく質、及びその加水分解物、牛胎盤エキスより抽出するプラセンタエキスなど動物由来の化合物も保湿剤として使用されることがあるが、動物由来の化合物は、その安全性への信頼度の低下から皮膚外用剤として用いることが禁止される国が増えつつあり、産業界でもより安全な起源の化合物へのシフトが進みつつある。

【0005】

【特許文献1】 特開平8-325131公報

【特許文献2】 特開平11-180818公報

【特許文献3】 特開2001-89381公報

【特許文献4】 特開2002-53426公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

出証特2004-3118153

## 【0006】

本発明の課題は、皮膚に潤いと張りを十分に与える皮膚外用剤を提供することにある。そのために、皮膚外用剤からの溶出が少なく、十分に保持され、水分保持量が十分である皮膚外用剤であり、更には、乾燥時にも皮膚に対する不快なツッパリ感が出ず、構造や成分が一定で品質管理が容易で、かつ安全性の観点からも安心して使用できる配合である皮膚外用剤を提供することを目的とするものである。より詳しくは、無水糖を起源とした合成高分子体である多分岐多糖及び／または多分岐多糖誘導体を含有する皮膚外用剤を提供することを課題の一つとする。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0007】

本発明者らは、上記課題を解決すべく鋭意検討を行った結果、糖類を構成単位とする多分岐多糖を骨格とした多分岐多糖誘導体及び／または多分岐多糖誘導体を含有する皮膚外用剤として用いることにより、皮膚への水分を補い、更に皮膚への付着性や親和性を著しく改善して、乾燥時にも皮膚の感触が良好となることを見出し、本発明を完成するに至った。

## 【0008】

すなわち、本発明は以下の事項に関する。

【1】糖類を構成単位とする多分岐多糖を骨格とし、前記多分岐多糖の水酸基（OH）の少なくとも一つがOR（Rは、水素原子、炭素数1～30の炭化水素、またはヘテロ原子を有する炭素数1～30の炭化水素を表わす。）で置換された多分岐多糖誘導体を含有することを特徴とする皮膚外用剤。

【2】骨格となる多分岐多糖が、無水糖及び／または無水糖の水酸基（OH）の少なくとも一つがOR（Rは、水素原子、炭素数1～30の炭化水素、またはヘテロ原子を有する炭素数1～30の炭化水素を表わす。）で置換された無水糖誘導体をモノマーをとする重合体である前記1に記載の皮膚外用剤。

【3】無水糖または無水糖誘導体の無水糖部分が、1, 6-アナンヒドロ糖、1, 4-アナンヒドロ糖、1, 3-アナンヒドロ糖、1, 2-アナンヒドロ糖、及び5, 6-アナンヒドロ糖からなる群から選択される少なくとも1種である前記2に記載の皮膚外用剤。

【4】重合体が、カチオン重合あるいはアニオン重合により得られたものである前記2に記載の皮膚外用剤。

【5】多分岐多糖の分岐度が、0.05～1.00である前記1に記載の皮膚外用剤。

【6】多分岐多糖誘導体の含量が0.1～80質量%である前記1～5のいずれかに記載の皮膚外用剤。

【7】前記1～6のいずれかに記載の皮膚外用剤を含有してなる化粧料。

## 【発明の効果】

## 【0009】

糖類を構成単位とする多分岐多糖を骨格とした多分岐多糖誘導体を皮膚外用剤に配合することにより、皮膚に水分を補い、かつ皮膚への付着性や親和性が優れることから、乾燥時にも皮膚の潤いと張りを保ち、その感触を良好に保つ効果のある優れた皮膚外用剤を提供することができる。

## 【発明を実施するための最良の形態】

## 【0010】

本発明の多分岐多糖誘導体の骨格をなす多分岐多糖は、多分岐多糖であれば特に制限はないが、一種類あるいは多種類の糖をその構成成分として構成される化合物である。その構造は、複数個の水酸基を有する同一の糖分子内において、隣接する糖分子との結合部位が3個以上存在することによって、分岐点を多数有する樹形図状の構造である。一般に天然物として多種存在する多糖は、直鎖状多糖や分岐点の少ない分岐多糖であり、いずれも主鎖が存在する。多分岐多糖は、その分岐点の多さから明確な主鎖が存在しない化合物である。

## 【0011】

本発明の多分岐多糖を構成する糖は、例えば、5単糖としては、リボース、デオキシリボース、6単糖としては、グルコース、フルクトース、ガラクトースなどを挙げることができる。

#### 【0012】

本発明の多分岐多糖の製造方法としては、従来知られている方法が適用できる。例えば、化学合成法によって製造される方法としては、単糖の誘導体をモノマーとして重合して多分岐多糖を得る製造方法などを挙げることができ、その例として、特開2003-252904公報にあるように、無水糖をモノマーとしたイオン重合によって多分岐多糖を得る製造方法などがある。

#### 【0013】

この場合、無水糖としては、例えば、1, 6-アンヒドロ糖、1, 4-アンヒドロ糖、1, 3-アンヒドロ糖、1, 2-アンヒドロ糖、5, 6-アンヒドロ糖などとそれらの誘導体、具体的には、1, 6-アンヒドロ-β-D-グルコピラノース、1, 6-アンヒドロ-β-D-マンノピラノース、1, 6-アンヒドロ-β-D-ガラクトピラノース、1, 6-アンヒドロ-β-D-アロピラノース、1, 6-アンヒドロ-β-D-アルトロピラノース、1, 4-アンヒドロ-β-D-リボピラノース、1, 4-アンヒドロ-α-D-キシロピラノース、1, 4-アンヒドロ-α-L-アラビノピラノース、1, 4-アンヒドロ-α-D-リキソピラノース、1, 3-アンヒドロ-β-D-グルコピラノース、1, 3-アンヒドロ-β-D-マンノピラノース、1, 2-アンヒドロ-α-D-グルコピラノース、1, 2-アンヒドロ-β-D-マンノピラノース、5, 6-アンヒドロ-α-D-グルコピラノースなどとそれらの誘導体を挙げることができる。

#### 【0014】

また、イオン重合としては、カチオン重合やアニオン重合を挙げることができる。また、動物、植物、微生物を用いて、または、その飼育、栽培、培養などの方法を用いることで、多分岐多糖を得る製造方法などもある。この場合、所望の分岐度の多分岐多糖をそのまま使用することもできるが、あるいは分岐度を高めた多分岐多糖を製造する方法として、例えば特開平8-41104に開示されてる製造方法により分岐多糖から多分岐多糖へ分岐度を高めることなどもある。

#### 【0015】

本発明の多分岐多糖誘導体は、骨格となる多分岐多糖の水酸基の一部、及び／または全部が置換基によって置換された構造であり、例えば、多分岐多糖の水酸基OHの少なくとも一つがOR（Rは、水素原子、炭素数1～30の炭化水素、またはヘテロ原子を有する炭素数1～30の炭化水素を表わす。）で置換された化合物などがある。

#### 【0016】

Rとしては、例えば、メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、ブチル基、1-メチルプロピル基、2-メチルプロピル基、ペンチル基、1-メチルブチル基、2-メチルブチル基、3-メチルブチル基、1-エチルプロピル基、ヘキシル基、1-メチルペンチル基、2-メチルペンチル基、3-メチルペンチル基、4-メチルペンチル基、1-エチルブチル基、2-エチルブチル基、ヘプチル基、1-メチルヘキシル基、2-メチルヘキシル基、3-メチルヘキシル基、4-メチルヘキシル基、5-メチルヘキシル基、1-エチルペンチル基、2-エチルペンチル基、3-エチルペンチル基、オクチル基、1-メチルヘプチル基、2-メチルヘプチル基、3-メチルヘプチル基、4-メチルヘプチル基、5-メチルヘプチル基、6-メチルヘプチル基、1-エチルヘキシル基、2-エチルヘキシル基、3-エチルヘキシル基、4-エチルヘキシル基、1-プロピルペンチル基、2-プロピルペンチル基、ノニル基、デシル基、ウンデシル基、10-ウンデセニル基、ドデシル基、トリデシル基、テトラデシル基、ペンタデシル基、ヘキサデシル基、9-ヘキサデセニル基、ヘプタデシル基、オクタデシル基、イソステアリル基、シス-9-オクタデセニル基、11-オクタデセニル基、シス、シス-9, 12-オクタデカジエニル基、9, 12, 15-オクタデカトリエニル基、6, 9, 12-オクタデカトリエニル基、9, 11, 13-オクタデカトリエニル基、ノナデシル基、2, 6, 10, 14-テト

出証特2004-3118153

ラメチルペンタデシル基、イコサニル基、8, 11-イコサジエニル基、5, 8, 11-イコサトリエニル基、5, 8, 11, 14-イコサテトラエニル基、3, 7, 11, 15-テトラメチルヘキサデシル基、ヘンイコサニル基、ドコサニル基、アセチル基、プロピオニル基、イソプロピオニル基、ブチリル基、1-メチルプロピオニル基、2-メチルプロピオニル基、バレリル基、1-メチルブチリル基、2-メチルブチリル基、3-メチルブチリル基、1-エチルプロピオニル基、ヘキサノイル基、2-メチルペンタノイル基、3-メチルペンタノイル基、4-メチルペンタノイル基、2-エチルブタノイル基、ヘプタノイル基、2-メチルヘキサノイル基、3-メチルヘキサノイル基、4-メチルヘキサノイル基、2-エチルペンタノイル基、3-エチルペンタノイル基、オクタノイル基、2-メチルヘプタノイル基、3-メチルヘプタノイル基、4-メチルヘプタノイル基、5-メチルヘプタノイル基、6-メチルヘプタノイル基、2-エチルヘキサノイル基、3-エチルヘキサノイル基、4-エチルヘキサノイル基、2-プロピルペンタノイル基、ノナノイル基、デカノイル基、ウンデカノイル基、10-ウンデセノイル基、ドデカノイル基、トリデカノイル基、テトラデカノイル基、ペンタデカノイル基、ヘキサデカノイル基、9-ヘキサデセノイル基、ヘプタデカノイル基、オクタデカノイル基、イソステアリル基、シス-9-オクタデセノイル基、11-オクタデセノイル基、シス, シス-9, 12-オクタデカジエノイル基、9, 12, 15-オクタデカトリエノイル基、6, 9, 12-オクタデカトリエノイル基、9, 11, 13-オクタデカトリエノイル基、ノナデカノイル基、2, 6, 10, 14-テトラメチルペンタデカノイル基、イコサノイル基、8, 11-イコサジエノイル基、5, 8, 11-イコサトリエノイル基、5, 8, 11, 14-イコサテトラエノイル基、3, 7, 11, 15-テトラメチルヘキサデカノイル基、ヘンイコサノイル基、ドコサノイル基、ホスファチジル基などを挙げることができる。さらにはRがイソシアナート基で結合した化合物なども含まれる。

#### 【0017】

本発明の多分岐多糖誘導体の合成方法には、例えば、骨格となる多分岐多糖を得てから糖の水酸基を所望の官能基で修飾して多分岐多糖誘導体を合成する方法、あるいは多分岐多糖のモノマーとなる無水糖の水酸基を所望の官能基で修飾した後に重合して多分岐多糖誘導体を合成する方法などがある。

#### 【0018】

水酸基の修飾は、例えばカルボン酸誘導体を用いる通常のエステル化反応による方法が可能である。具体的には、カルボン酸を酸クロライドや混合酸無水物として反応する方法、カルボジイミドを用いて反応する方法、酸無水物を使用する方法等が挙げられる。また、イソシアナート基を有する化合物の場合は、加熱や錫系やアミン系等の触媒を用いてウレタン結合を形成する修飾方法等がある。

#### 【0019】

本発明の多分岐多糖誘導体の骨格を成す多分岐多糖の分岐度は、0.05~1.00、好ましくは0.2~1.0、より好ましくは0.4~1.0である。ここで、多分岐度は一般には以下に示すFréchetの式により算出する。

#### 【0020】

##### 【数1】

$$\text{分岐度} = (\text{分岐ユニット数} + \text{ポリマー末端数}) / (\text{分岐ユニット数} + \text{ポリマー末端数} + \text{直鎖ユニット数})$$

#### 【0021】

本発明で用いられる多分岐多糖誘導体の皮膚外用剤への配合方法としては、固体、粉体、半固体として混合して皮膚外用剤を製造する方法、水溶液として混合して皮膚外用剤を製造する方法、アルコール類、あるいは適当な溶媒の溶液として混合して皮膚外用剤を製造する方法、その他に公知の方法で混合あるいは添加して皮膚外用剤を添加する方法などが挙げられる。

#### 【0022】



本発明で用いられる多分岐多糖誘導体は、例えば粉末状としても単離できるが、製造工程中で得られる水溶液などをそのまま皮膚外用剤に配合することもできる。

#### 【0023】

本発明で用いられる多分岐多糖誘導体の配合量は、皮膚外用剤、化粧料の形態として配合可能な範囲であれば、特に制限はないが、0.01質量%～100質量%配合することができ、好ましくは0.1質量%～80質量%、さらに好ましくは1質量%～50質量%である。皮膚外用剤に対して0.01質量%未満の配合量では、皮膚への付着性、親和性が十分でなく、皮膚での保湿感など感触が十分に得られないことがある。皮膚外用剤として本来の機能を損なわない範囲で配合することができる。

本発明でいう皮膚外用剤は、直接皮膚に触れる化粧料、洗浄剤、入浴剤、石鹸などを含む。

#### 【0024】

本発明の皮膚外用剤としては、例えばスキンミルク、スキนครリーム、ファンデーションクリーム、マッサージクリーム、クレンジングクリーム、シェービングクリーム、クレンジングフォーム、化粧水、ローション、パック、口紅、頬紅、アイシャドー、マニキュア、石鹸、ボディシャンプー、ハンドソープ、シャンプー、リンス、ヘアトニック、トリートメント、ヘアクリーム、ヘアスプレー、育毛剤、養毛剤、染毛剤、整髪料、脱毛剤、ふけ防止剤、歯磨、義歯接着剤、うがい剤、パーマメントウェーブ剤、カーリング剤、スタイリング剤、軟膏剤、バップ剤、テープ剤、入浴剤、制汗剤、日焼防止剤、等が広義には含まれ、使用時に皮膚に接触させるものなら種類を問わない。特に化粧料として使用することが好ましい。また使用者の性別、老若を問わない。さらには人の他に、動物類の皮膚に接触させるものも含む。

また本発明の形状としては、固体、液体、半固体、気体のほか、粉体、顆粒、錠形、ゲル状、泡状など多数の形態が挙げられる。

#### 【0025】

本発明の皮膚外用剤は、多分岐多糖及び／または多分岐多糖誘導体以外の成分として、必要に応じてこの発明の効果を損なわない範囲内で一般に皮膚外用剤に用いられる成分を配合することができ、例えば、化粧料へ配合することのできる化合物、医薬部外品の原料となる化合物、医薬品、医薬品添加物などある。

#### 【0026】

このような成分として具体的には、例えば、

オゾケライト、 $\alpha$ -オレフィンオリゴマー、軽質イソパラフィン、軽質流動イソパラフィン、スクワレン、スクワラン、合成スクワラン、植物性スクワラン、セレシン、パラフィン、ポリエチレン末、ポリブテン、マイクロクリスタリンワックス、流動イソパラフィン、流動パラフィン、ミネラル油、ワセリン等の炭化水素類；

#### 【0027】

ホホバ油、カルナウバロウ、キャンデリラロウ、コメヌカロウ、セラック、ラノリン、ミンク皮脂ロウ、鯨ロウ、サトウキビロウ、マッコウクジラ油、ミツロウ、モンタンロウ等の天然ロウ類、アボガド油、アルモンド油、オリーブ油、エクストラバージンオリーブ油、ゴマ油、コメヌカ油、米油、コメ胚芽油、コーン油、サフラワー油、大豆油、トウモロコシ油、ナタネ油、バーシック油、パーム核油、パーム油、ヒマシ油、ヒマワリ油、ハイオレイックヒマワリ油、グレープシード油、綿実油、ヤシ油、水添ヤシ油、牛脂、硬化油、馬油、ミンク油、卵黄油、卵黄脂肪油、ローズヒップ油、ククイナツ油、月見草油、小麦胚芽油、落花生油、ツバキ油、サザンカ油、カカオ脂、モクロウ、牛骨脂、牛脚油、豚脂、馬脂、羊脂、シアバター、マカデミアナツ油、メドウホーム油等の天然油脂類；

#### 【0028】

ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸、 $\gamma$ -リノレン酸、イソステアリン酸、12-ヒドロキシステアリン酸、ウンデシレン酸、ヤシ油脂肪酸等の脂肪酸類；

イソステアリアルアルコール、オクチルドデカノール、ヘキシルデカノール、コレステロール、フィトステロール、ラウリアルアルコール、ミリスチルアルコール、セタノール、ステアリアルアルコール、オレイルアルコール、ベヘニルアルコール、セトステアリアルアルコール等の高級アルコール類；

バチルアルコール、キミルアルコール、セラキルアルコール、イソステアリルグリセリルエーテル等のアルキルグリセリルエーテル類；

【0029】

ミリスチン酸イソプロピル、ミリスチン酸ブチル、パルミチン酸イソプロピル、ステアリン酸エチル、ステアリン酸ブチル、オレイン酸エチル、リノール酸エチル、リノール酸イソプロピル、カプリル酸セチル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸イソオクチル、ミリスチン酸デシル、ミリスチン酸ミリスチル、ミリスチン酸セチル、ミリスチン酸オクタデシル、パルミチン酸セチル、ステアリン酸ステアリル、オレイン酸デシル、オレイン酸オレイル、リシノール酸セチル、ラウリン酸イソステアリル、ミリスチン酸イソトリデシル、ミリスチン酸イソセチル、ミリスチン酸イソステアリル、ミリスチン酸オクチルドデシル、パルミチン酸2-エチルヘキシル、パルミチン酸イソセチル、パルミチン酸イソステアリル、ステアリン酸2-エチルヘキシル、ステアリン酸イソセチル、オレイン酸イソデシル、オレイン酸オクチルドデシル、リシノール酸オクチルドデシル、イソステアリン酸エチル、イソステアリン酸イソプロピル、2-エチルヘキサン酸セチル、2-エチルヘキサン酸セトステアリル、2-エチルヘキサン酸ステアリル、イソステアリン酸ヘキシル、ジオクタン酸エチレングリコール、ジオレイン酸エチレングリコール、ジカプリル酸プロピレングリコール、ジ（カプリル・カプリン酸）プロピレングリコール、ジカプリン酸プロピレングリコール、ジオレイン酸プロピレングリコール、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、ジオクタン酸ネオペンチルグリコール、トリカプリル酸グリセリル、トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル、トリ（カプリル・カプリン酸）グリセリル、トリ（カプリル酸・カプリン酸・ステアリン酸）グリセリル、トリウンデシル酸グリセリル、トリイソパルミチン酸グリセリル、トリイソステアリン酸グリセリル、トリ2-エチルヘキサン酸トリメチロールプロパン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、テトラ2-エチルヘキサン酸ペンタエリスリチル、テトラミリスチン酸ペンタエリスリチル、テトライソステアリン酸ペンタエリスリチル、テトライソステアリン酸ジグリセリル、ネオペンタン酸オクチルドデシル、オクタン酸イソセチル、オクタン酸イソステアリル、イソペラルゴン酸2-エチルヘキシル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、ジメチルオクタン酸オクチルドデシル、イソパルミチン酸2-エチルヘキシル、イソステアリン酸イソセチル、イソステアリン酸イソステアリル、イソステアリン酸オクチルドデシル、乳酸ラウリル、乳酸ミリスチル、乳酸セチル、乳酸オクチルドデシル、クエン酸トリエチル、クエン酸アセチルトリエチル、クエン酸アセチルトリブチル、クエン酸トリオクチル、クエン酸トリイソセチル、クエン酸トリオクチルドデシル、リンゴ酸ジイソステアリル、ヒドロキシステアリン酸2-エチルヘキシル、コハク酸ジ2-エチルヘキシル、アジピン酸ジイソプロピル、アジピン酸ジイソブチル、アジピン酸ジオクチル、アジピン酸ジヘプチルウンデシル、セバシン酸ジエチル、セバシン酸ジイソプロピル、セバシン酸ジオクチル、ステアリン酸コレステリル、イソステアリン酸コレステリル、ヒドロキシステアリン酸コレステリル、オレイン酸コレステリル、オレイン酸ジヒドロコレステリル、イソステアリン酸フィトステリル、オレイン酸フィトステリル、12-ステアロイルヒドロキシステアリン酸イソセチル、12-ステアロイルヒドロキシステアリン酸ステアリル、12-ステアロイルヒドロキシステアリン酸イソステアリル、酢酸ポリオキシエチレン（3）ポリオキシプロピレン（1）セチルエーテル、酢酸ポリオキシエチレン（3）ポリオキシプロピレン（1）イソセチルエーテル、イソノナン酸イソノニル、イソノナン酸オクチル、イソノナン酸トリデシル、イソノナン酸イソトリデシル等のエステル類；

【0030】

メチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、メチルハイドロジェンポリシロキサン、メチルシクロポリシロキサン、オクタメチルシクロテトラシロキサン、デカメ

チルシクロペンタシロキサン、ドデカメチルシクロヘキサシロキサン、オクタメチルトリシロキサン、デカメチルテトラシロキサン、テトラデカメチルヘキサシロキサン、高重合メチルポリシロキサン、ジメチルシロキサン・メチル（ポリオキシエチレン）シロキサン・メチル（ポリオキシプロピレン）シロキサン共重合体、ジメチルシロキサン・メチル（ポリオキシエチレン）シロキサン共重合体、ジメチルシロキサン・メチル（ポリオキシプロピレン）シロキサン共重合体、ジメチルシロキサン・メチルセチルオキシシロキサン共重合体、ジメチルシロキサン・メチルステアロキシシロキサン共重合体、ポリエーテル変性シリコーン、アルコール変性シリコーン、アルキル変性シリコーン、アミノ変性シリコーン等のシリコーン油類；

#### 【0031】

エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、ポリエチレングリコール、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、ポリプロピレングリコール、ペンタンジオール、グリセリン、ジグリセリン、ポリグリセリン、イソプレングリコール、1, 3-ブチレングリコール、3-メチル-1, 3-ブタンジオール、1, 3-ブタンジオール、1, 2-ペンタンジオール、1, 2-ヘキサジオール等の多価アルコール類；

マンニトール、ソルビトール、キシリトール、マルチトール、エリスリトール、ペンタエリスリトール、グルコース、ショ糖、果糖、乳糖、マルトース、キシロース、トレハロース等の糖類；

#### 【0032】

アルギン酸ナトリウム、カラギーナン、寒天、ファーセラン、グアーガム、クインシード、コンニャクマンナン、タマリンドガム、タラガム、デキストリン、デンプン、ローカストビーンガム、アラビアガム、ガッティガム、カラヤガム、トラガカントガム、アラビノガラクトン、ペクチン、マルメロ、キトサン、デンプン、カードラン、キサンタンガム、ジェランガム、シクロデキストリン、デキストラン、ブルラン、微結晶セルロース、メチルセルロース、エチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシデンプン、カチオン化セルロース、デンプンリン酸エステル、カチオン化グアーガム、カルボキシメチル・ヒドロキシプロピル化グアーガム、ヒドロキシプロピル化グアーガム、アルブミン、カゼイン、ゼラチン、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリアクリル酸アミド、カルボキシビニルポリマー、ポリエチレンイミン、高重合ポリエチレングリコール、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、ポリビニルエーテル、ポリアクリルアミド、アクリル酸共重合体、メタクリル酸共重合体、マレイン酸共重合体、ビニルピリジン共重合体、エチレン/アクリル酸共重合体、ビニルピロリドン系ポリマー、ビニルアルコール/ビニルピロリドン共重合体、窒素置換アクリルアミド系ポリマー、アミノ変性シリコーン、カチオン化ポリマー、ジメチルアクリルアンモニウム系ポリマー、アクリル酸系アニオンポリマー、メタクリル酸系アニオンポリマー、変性シリコーン、アクリル酸メタクリル酸アルキル ( $C_{10-30}$ ) 共重合体、ポリオキシエチレン/ポリオキシプロピレン共重合体等の高分子類；

#### 【0033】

エタノール、イソプロピルアルコール、1-ブタノール、2-ブタノール、ベンジルアルコール等のアルコール類；

ヤシ油脂肪酸カリウム、ヤシ油脂肪酸ナトリウム、ヤシ油脂肪酸トリエタノールアミン、ラウリン酸カリウム、ラウリン酸ナトリウム、ラウリン酸トリエタノールアミン、ミリスチン酸カリウム、ミリスチン酸ナトリウム、ミリスチン酸イソプロパノールアミン、パルミチン酸カリウム、パルミチン酸ナトリウム、パルミチン酸イソプロパノールアミン、ステアリン酸カリウム、ステアリン酸ナトリウム、ステアリン酸トリエタノールアミン、オレイン酸カリウム、オレイン酸ナトリウム、ヒマシ油脂肪酸ナトリウム、ウンデシレン酸亜鉛、ラウリン酸亜鉛、ミリスチン酸亜鉛、ミリスチン酸マグネシウム、パルミチン酸亜鉛、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸カルシウム、ステアリン酸マグネシウム、ステア

リン酸アルミニウム、ミリスチン酸カルシウム、ミリスチン酸マグネシウム、ジミリスチン酸アルミニウム、イソステアリン酸アルミニウム、ポリオキシエチレンラウリルエーテル酢酸、ポリオキシエチレンラウリルエーテル酢酸ナトリウム、ポリオキシエチレントリデシルエーテル酢酸、ポリオキシエチレントリデシルエーテル酢酸ナトリウム、ステアロイル乳酸ナトリウム、イソステアロイル乳酸ナトリウム、ラウロイルサルコシンナトリウム、ヤシ油脂肪酸サルコシン、ヤシ油脂肪酸サルコシンナトリウム、ヤシ油脂肪酸サルコシントリエタノールアミン、ラウロイルサルコシン、ラウロイルサルコシンカリウム、ラウロイルサルコシントリエタノールアミン、オレオイルサルコシン、ミリストイルサルコシンナトリウム、ステアロイルグルタミン酸ナトリウム、ヤシ油脂肪酸アシルグルタミン酸、ヤシ油脂肪酸アシルグルタミン酸カリウム、ヤシ油脂肪酸アシルグルタミン酸ナトリウム、ヤシ油脂肪酸アシルグルタミン酸トリエタノールアミン、ラウロイルアシルグルタミン酸、ラウロイルアシルグルタミン酸カリウム、ラウロイルアシルグルタミン酸ナトリウム、ラウロイルアシルグルタミン酸トリエタノールアミン、ミリストイルアシルグルタミン酸、ミリストイルアシルグルタミン酸カリウム、ミリストイルアシルグルタミン酸ナトリウム、ステアロイルアシルグルタミン酸、ステアロイルアシルグルタミン酸カリウム、ステアロイルアシルグルタミン酸二ナトリウム、硬化牛脂脂肪酸アシルグルタミン酸ナトリウム、ヤシ油脂肪酸・硬化牛脂脂肪酸アシルグルタミン酸ナトリウム、ヤシ油脂肪酸メチルアラニンナトリウム、ラウロイルメチルアラニン、ラウロイルメチルアラニンナトリウム、ラウロイルメチルアラニントリエタノールアミン、ミリストイルメチルアラニンナトリウム、ラウロイルメチルタウリンナトリウム、ヤシ油脂肪酸メチルタウリンカリウム、ヤシ油脂肪酸メチルタウリンナトリウム、ヤシ油脂肪酸メチルタウリンマグネシウム、ミリストイルメチルタウリンナトリウム、バルミトイルメチルタウリンナトリウム、ステアロイルメチルタウリンナトリウム、オレオイルメチルタウリンナトリウム、アルカンスルホン酸ナトリウム、テトラデセンスルホン酸ナトリウム、スルホコハク酸ジオクチルナトリウム、スルホコハク酸ラウリル二ナトリウム、ヤシ油脂肪酸エチルエステルスルホン酸ナトリウム、ラウリル硫酸ナトリウム、ラウリル硫酸トリエタノールアミン、セチル硫酸ナトリウム、アルキル(11, 13, 15)硫酸トリエタノールアミン、アルキル(12, 13)硫酸ナトリウム、アルキル(12, 13)硫酸トリエタノールアミン、アルキル(12, 14, 16)硫酸アンモニウム、アルキル(12~13)硫酸ジエタノールアミン、アルキル(12~14)硫酸トリエタノールアミン、アルキル(12~15)硫酸トリエタノールアミン、ヤシ油アルキル硫酸マグネシウム・トリエタノールアミン、ラウリル硫酸アンモニウム、ラウリル硫酸カリウム、ラウリル硫酸マグネシウム、ラウリル硫酸モノエタノールアミン、ラウリル硫酸ジエタノールアミン、ミリスチル硫酸ナトリウム、ステアリル硫酸ナトリウム、オレイル硫酸ナトリウム、オレイル硫酸トリエタノールアミン、ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸ナトリウム、ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸トリエタノールアミン、ポリオキシエチレン(1)アルキル(11, 13, 15)エーテル硫酸ナトリウム、ポリオキシエチレン(1)アルキル(11, 13, 15)エーテル硫酸トリエタノールアミン、ポリオキシエチレン(3)アルキル(11~15)エーテル硫酸ナトリウム、ポリオキシエチレン(2)アルキル(12, 13)エーテル硫酸ナトリウム、ポリオキシエチレン(3)アルキル(12~14)エーテル硫酸ナトリウム、ポリオキシエチレン(3)アルキル(12~15)エーテル硫酸ナトリウム、ポリオキシエチレン(2)ラウリルエーテル硫酸ナトリウム、ポリオキシエチレン(3)ミリスチルエーテル硫酸ナトリウム、高級脂肪酸アルカノールアミド硫酸エステルナトリウム、ラウリルリン酸、ラウリルリン酸ナトリウム、セチルリン酸カリウム、セチルリン酸ジエタノールアミン、ポリオキシエチレンオレイルエーテルリン酸、ポリオキシエチレンラウリルエーテルリン酸、ポリオキシエチレンラウリルエーテルリン酸ナトリウム、ポリオキシエチレンセチルエーテルリン酸、ポリオキシエチレンセチルエーテルリン酸ナトリウム、ポリオキシエチレンステアリルエーテルリン酸、ポリオキシエチレンオレイルエーテルリン酸、ポリオキシエチレンオレイルエーテルリン酸ナトリウム、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテルリン酸、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテルリ

ン酸ナトリウム、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテルリン酸トリエタノールアミン、ポリオキシエチレンオクチルエーテルリン酸、ポリオキシエチレン(10)アルキル(12, 13)エーテルリン酸、ポリオキシエチレンアルキル(12~15)エーテルリン酸、ポリオキシエチレンアルキル(12~16)エーテルリン酸、ポリオキシエチレンラウリルエーテルリン酸トリエタノールアミン、ポリオキシエチレンオレイルエーテルリン酸ジエタノールアミン等の陰イオン界面活性剤；

#### 【0034】

ジオクチルアミン、ジメチルステアリルアミン、トリラウリルアミン、ステアリン酸ジエチルアミノエチルアミド、塩化ラウリルトリメチルアンモニウム、塩化セチルトリメチルアンモニウム、臭化セチルトリメチルアンモニウム、セチルトリメチルアンモニウムサッカリン、塩化ステアリルトリメチルアンモニウム、塩化アルキル(20~22)トリメチルアンモニウム、臭化ラウリルトリメチルアンモニウム、塩化アルキル(16, 18)トリメチルアンモニウム、臭化ステアリルトリメチルアンモニウム、ステアリルトリメチルアンモニウムサッカリン、塩化アルキル(28)トリメチルアンモニウム、塩化ジ(ポリオキシエチレン)オレイルメチルアンモニウム(2EO)、塩化ジポリオキシエチレンステアリルメチルアンモニウム、塩化ポリオキシエチレン(1)ポリオキシプロピレン(25)ジエチルメチルアンモニウム、塩化トリ(ポリオキシエチレン)ステアリルアンモニウム(5EO)、塩化ジステアリルジメチルアンモニウム、塩化ジアルキル(12~15)ジメチルアンモニウム、塩化ジアルキル(12~18)ジメチルアンモニウム、塩化ジアルキル(14~18)ジメチルアンモニウム、塩化ジココイルジメチルアンモニウム、塩化ジセチルジメチルアンモニウム、塩化イソステアリルラウリルジメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム、塩化ミリスチルジメチルベンジルアンモニウム、塩化ラウリルジメチル(エチルベンジル)アンモニウム、塩化ステアリルジメチルベンジルアンモニウム、塩化ラウリルピリジニウム、塩化セチルピリジニウム、塩化ラウロイルコラミノホルミルメチルピリジニウム、塩化ステアロイルコラミノホルミルメチルピリジニウム、臭化アルキルイソキノリウム、塩化メチルベンゼトニウム、塩化ベンゼトニウム等の陽イオン界面活性剤；

#### 【0035】

2-アルキル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタイン、塩酸アルキルジアミノエチルグリシン、ラウリルジアミノエチルグリシナトリウム、ウンデシルヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタインナトリウム、ウンデシル-N-カルボキシメチルイミダゾリニウムベタイン、ヤシ油脂肪酸アシル-N-カルボキシエチル-N-ヒドロキシエチルエチレンジアミン二ナトリウム、ヤシ油脂肪酸アシル-N-カルボキシエトキシエチル-N-カルボキシエチルエチレンジアミン二ナトリウム、ヤシ油脂肪酸アシル-N-カルボキシメトキシエチル-N-カルボキシメチルエチレンジアミン二ナトリウム、ラウリルアミノプロピオン酸ナトリウム、ラウリルアミノジプロピオン酸ナトリウム、ラウリルアミノプロピオン酸トリエタノールアミン、パーム油脂肪酸アシル-N-カルボキシエチル-N-ヒドロキシエチルエチレンジアミンナトリウム、ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン、ヤシ油アルキルジメチルアミノ酢酸ベタイン、ステアリルジメチルアミノ酢酸ベタイン、ステアリルジメチルベタインナトリウム、ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタイン、パーム油脂肪酸アミドプロピルベタイン、ラウリン酸アミドプロピル酢酸ベタイン、リシノレイン酸アミドプロピルベタイン、ステアリルジヒドロキシエチルベタイン、ラウリルヒドロキシルホベタイン等の両性界面活性剤；

#### 【0036】

ポリオキシエチレン(10)アルキル(12, 13)エーテル、ポリオキシエチレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレンセチルエーテル、ポリオキシエチレンステアリルエーテル、ポリオキシエチレンオレイルエーテル、ポリオキシエチレン(3, 7, 12)アルキル(12~14)エーテル、ポリオキシエチレントリデシルエーテル、ポリオキシエチレンミリスチルエーテル、ポリオキシエチレン-sec-アルキル(14)エーテル、ポリオキシエチレンイソセチルエーテル、ポリオキシエチレンセトステアリルエーテル、

ポリオキシエチレン (2, 10, 20) イソステアリルエーテル、ポリオキシエチレンオレイルセチルエーテル、ポリオキシエチレン (20) アラキルエーテル、ポリオキシエチレンオクタドデシルエーテル、ポリオキシエチレンベヘニルエーテル、ポリオキシエチレンオクタフェニルエーテル、ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンジノニルフェニルエーテル、ポリオキシエチレン (1) ポリオキシプロピレン (1, 2, 4, 8) セチルエーテル、ポリオキシエチレン (5) ポリオキシプロピレン (1, 2, 4, 8) セチルエーテル、ポリオキシエチレン (10) ポリオキシプロピレン (1, 2, 4, 8) セチルエーテル、ポリオキシエチレン (20) ポリオキシプロピレン (1, 2, 4, 8) セチルエーテル、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレン (3) ポリオキシプロピレン (34) ステアリルエーテル、ポリオキシエチレン (4) ポリオキシプロピレン (30) ステアリルエーテル、ポリオキシエチレン (34) ポリオキシプロピレン (23) ステアリルエーテル、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンセチルエーテル、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンデシルテトラデシルエーテル、モノラウリン酸ポリエチレングリコール、モノステアリン酸エチレングリコール、モノステアリン酸ポリエチレングリコール、モノオレイン酸ポリエチレングリコール、エチレングリコール脂肪酸エステル、自己乳化型モノステアリン酸エチレングリコール、ラウリン酸ジエチレングリコール、ミリスチン酸ポリエチレングリコール、パルミチン酸ポリエチレングリコール、ステアリン酸ジエチレングリコール、自己乳化型モノステアリン酸ポリエチレングリコール (2)、イソステアリン酸ポリエチレングリコール、ジオクタン酸エチレングリコール、ジラウリン酸ジエチレングリコール、ジラウリン酸ポリエチレングリコール、ジパルミチン酸ポリエチレングリコール (150)、ジステアリン酸エチレングリコール、ジステアリン酸ジエチレングリコール、ジステアリン酸ポリエチレングリコール、ジオレイン酸エチレングリコール、ジオレイン酸ポリエチレングリコール、ジリシノレイン酸ポリエチレングリコール、モノラウリン酸ポリオキシエチレン (20) ソルビタン、モノパルミチン酸ポリオキシエチレン (20) ソルビタン、モノステアリン酸ポリオキシエチレン (6) ソルビタン、モノステアリン酸ポリオキシエチレン (20) ソルビタン、トリステアリン酸ポリオキシエチレン (20) ソルビタン、モノオレイン酸ポリオキシエチレン (6) ソルビタン、モノオレイン酸ポリオキシエチレン (20) ソルビタン、トリオレイン酸ポリオキシエチレン (20) ソルビタン、ポリオキシエチレン (20) ヤシ油脂肪酸ソルビタン、モノラウリン酸ポリオキシエチレン (10~80) ソルビタン、トリステアリン酸ポリオキシエチレンソルビタン、イソステアリン酸ポリオキシエチレン (20) ソルビタン、トリステアリン酸ポリオキシエチレン (150) ソルビタン、ポリオキシエチレンヒマシ油、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン (10) 硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン (20) 硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン (40) 硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン (50) 硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン (60) 硬化ヒマシ油、親油型モノステアリン酸グリセリン、親油型モノオレイン酸グリセリン、自己乳化型モノステアリン酸グリセリン、ヤシ油脂肪酸グリセリル、ラウリン酸グリセリン、ミリスチン酸グリセリル、イソステアリン酸グリセリル、リシノレイン酸グリセリル、モノヒドロキシステアリン酸グリセリル、オレイン酸グリセリン、リノール酸グリセリル、エルカ酸グリセリル、ベヘン酸グリセリル、小麦胚芽油脂肪酸グリセリド、サフラワー油脂肪酸グリセリル、水素添加大豆脂肪酸グリセリル、飽和脂肪酸グリセリド、綿実油脂肪酸グリセリル、モノイソステアリン酸モノミリスチン酸グリセリル、モノ牛脂肪酸グリセリド、モノラウリン脂肪酸グリセリル、セスキオレイン酸グリセリル、ジステアリン酸グリセリル、ジイソステアリン酸グリセリル、ジアラキン酸グリセリル、モノラウリン酸ソルビタン、モノパルミチン酸ソルビタン、モノステアリン酸ソルビタン、モノイソステアリン酸ソルビタン、モノオレイン酸ソルビタン、セスキステアリン酸ソルビタン、セスキオレイン酸ソルビタン、トリステアリン酸ソルビタン、トリオレイン酸ソルビタン、ヤシ油脂肪酸ソルビタン、イソステアリン酸ソルビタン、セスキイソステアリン酸ソルビタン、ジステアリン酸ソルビタン、イソパルミチン酸ジグリセリル、モノラウリン酸ポリ (4~10) グリセリル、モノミリスチン酸ポリ (10)

グリセリル、モノステアリン酸ポリ(2~10)グリセリル、モノイソステアリン酸ポリ(2~10)グリセリル、モノオレイン酸ポリ(2~10)グリセリル、セスキオレイン酸ジグリセリル、ジイソステアリン酸ポリ(2~10)グリセリル、ジステアリン酸ポリ(6~10)グリセリル、トリイソステアリン酸ジグリセリル、トリステアリン酸ポリ(10)グリセリル、トリオレイン酸ポリ(10)グリセリル、テトライソステアリン酸ポリ(2)グリセリル、ペンタステアリン酸デカグリセリル、ペンタオレイン酸ポリ(6~10)グリセリル、ヘプタステアリン酸ポリ(10)グリセリル、デカステアリン酸デカグリセリル、デカオレイン酸ポリ(10)グリセリル、縮合リシノレイン酸ポリ(6)グリセリル、ショ糖脂肪酸エステル、ヤシ油脂肪酸ショ糖エステル、アルキルグルコシド、ヤシ油アルキルジメチルアミンオキシド、ラウリルジメチルアミンオキシド、ジヒドロキシエチルラウリルジメチルアミンオキシド、ステアリルジメチルアミンオキシド、オレイルジメチルアミンオキシド、ポリオキシエチレンヤシ油アルキルジメチルアミンオキシド等の非イオン界面活性剤；

#### 【0037】

サポニン、レシチン、大豆リン脂質、水素添加大豆リン脂質、大豆リゾリン脂質、水素添加大豆リゾリン脂質、卵黄レシチン、水素添加卵黄リゾホスファチジルコリン、ホスファチジルコリン、ホスファチジルエタノールアミン、ホスファチジルセリン、スフィンゴリン脂質、スフィンゴミエリン、ガングリオシド、胆汁酸、コール酸、デオキシコール酸、コール酸ナトリウム、デオキシコール酸ナトリウム、スピクリスボール酸、ラムノリピッド、トレハロースリピッド、ソホロリピッド、マンノシルエリスリトールリピッド等の天然系界面活性剤；

#### 【0038】

パラアミノ安息香酸、パラアミノ安息香酸エチル、パラアミノ安息香酸グリセリル、パラジメチルアミノ安息香酸アミル、パラジメチルアミノ安息香酸2-エチルヘキシル等のパラアミノ安息香酸誘導体、ケイ皮酸ベンジル、ジパラメトキシケイ皮酸モノ-2-エチルヘキサン酸グリセリル、2, 4-ジイソプロピルケイ皮酸メチル、2, 4-ジイソプロピルケイ皮酸エチル、パラメトキシケイ皮酸カリウム、パラメトキシケイ皮酸ナトリウム、パラメトキシケイ皮酸イソプロピル、パラメトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル、パラメトキシケイ皮酸2-エトキシエチル、パラエトキシケイ皮酸エチル等のケイ皮酸誘導体、ウロカニン酸、ウロカニン酸エチル等のウロカニン酸誘導体、2, 4-ジヒドロキシベンゾフェノン、2, 2', 4, 4'-テトラヒドロキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシ-5-スルホベンゾフェノンナトリウム、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2, 2'-ジヒドロキシ-4, 4'-ジメトキシベンゾフェノン、2, 2'-ジヒドロキシ-4, 4'-ジメトキシ-5-スルホベンゾフェノンナトリウム等のベンゾフェノン誘導体、サリチル酸エチレングリコール、サリチル酸-2-エチルヘキシル、サリチル酸フェニル、サリチル酸ベンジル、サリチル酸p-tert-ブチルフェニル、サリチル酸ホモメンチル、サリチル酸-3, 3, 5-トリメチルシクロヘキシル等のサリチル酸誘導体、2-(2'-ヒドロキシ-5'-メトキシフェニル)ベンゾトリアゾール、4-tert-ブチル-4'-メトキシベンゾイルメタン等の紫外線吸収剤；

#### 【0039】

カオリン、無水ケイ酸、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、セリサイト、タルク、窒化ホウ素、マイカ、モンモリロナイト、麻セルローズ末、小麦デンプン、シルク末、トウモロコシデンプン、ニトロ系色素、アゾ系色素、ニトロソ系色素、トリフェニルメタン系色素、キサンテン系色素、キノリン系色素、アントラキノン系色素、インジゴ系色素、ピレン系色素、フタロシアニン系色素、フラボノイド、キノン、ポルフィリン、水溶性アナトー、イカスミ末、カラメル、グアイアズレン、クチナシ青、クチナシ黄、コチニール、シコニン、銅クロロフィリンナトリウム、パブリカ色素、ベニバナ赤、ベニバナ黄、ラッカイン酸、リボフラビン酪酸エステル等の天然色素、カーボンブラック、黄酸化鉄、黒酸化鉄、ベンガラ、コンジョウ、群青、酸化亜鉛、酸化クロム、酸化チタン、黒酸化チタン、

出証特2004-3118153



酸化ジルコニウム、水酸化クロム、アルミナ、酸化マグネシウム、硫酸バリウム、水酸化アルミニウム、炭酸カルシウム、チタン酸リチウムコバルト、マンガンバイオレット、パール顔料等の粉体類及び色材類；

【0040】

アシタバエキス、アセンヤクエキス、アボガドエキス、アマチャエキス、アマチャズルエキス、アルテアエキス、アルニカエキス、油溶性アルニカエキス、アルモンドエキス、アロエエキス、アンソッコウエキス、イチヨウエキス、イラクサエキス、イリス根エキス、ウイキョウエキス、ウコンエキス、エイジツエキス、エチナシ葉エキス、オウゴンエキス、オウバクエキス、オウレンエキス、オオムギエキス、オクラエキス、オトギリソウエキス、油溶性オトギリソウエキス、オドリコソウエキス、油溶性オドリコソウエキス、オノニスエキス、オランダカラシエキス、オレンジエキス、オレンジフラワー水、海藻エキス、カキタンニン、カッコンエキス、カノコソウエキス、ガマエキス、カモミラエキス、油溶性カモミラエキス、カモミラ水、カラスムギエキス、カロットエキス、油溶性カロットエキス、カロット油、カワラヨモギエキス、カンゾウエキス、カンゾウ抽出末、カンゾウフラボノイド、カンタリスチンキ、キイチゴエキス、キウイエキス、キナエキス、キューカンパーエキス、キョウニンエキス、クインシードエキス、クチナシエキス、クマザサエキス、クララエキス、クルミ殻エキス、グレープフルーツエキス、クレマティスエキス、黒砂糖エキス、クロレラエキス、クワエキス、ケイヒエキス、ゲンチアナエキス、ゲンノショウコエキス、紅茶エキス、コウホネエキス、ゴボウエキス、油溶性ゴボウエキス、コムギ胚芽エキス、加水分解コムギ末、コメヌカエキス、コメヌカ発酵エキス、コンフリーエキス、サイシンエキス、サフランエキス、サボンソウエキス、油溶性サルビアエキス、サンザシエキス、サンショウエキス、シイタケエキス、シイタケエキス末、ジオウエキス、シコンエキス、油溶性シコンエキス、シソエキス、シナノキエキス、油溶性シナノキエキス、シモツケソウエキス、シャクヤクエキス、ジュズダマエキス、ショウキョウエキス、油溶性ショウキョウエキス、ショウキョウチンキ、ショウブ根エキス、シラカバエキス、油溶性シラカバエキス、シラカバ樹液、スイカズラエキス、スギナエキス、油溶性スギナエキス、スコルジニン、ステビアエキス、セイヨウキズタエキス、セイヨウサンザシエキス、セイヨウニワトコエキス、セイヨウネズエキス、セイヨウノコギリソウエキス、油溶性セイヨウノコギリソウエキス、セイヨウハッカエキス、セージエキス、油溶性セージエキス、セージ水、ゼニアオイエキス、セロリエキス、センキュウエキス、センキュウ水、センブリエキス、ダイズエキス、タイソウエキス、タイムエキス、チャエキス、チャ乾留液、チャ実エキス、チョウジエキス、チンピエキス、ツバキエキス、ツボクサエキス、油溶性テウチグルミエキス、デュークエキス、テルミナリアエキス、トウガラシチンキ、トウキエキス、油溶性トウキエキス、トウキ水、トウキンセンカエキス、油溶性トウキンセンカエキス、豆乳末、トウニンエキス、トウヒエキス、ドクダミエキス、トマトエキス、トルメンチラエキス、納豆エキス、ニンジンエキス、油溶性ニンジンエキス、ニンニクエキス、ノバラエキス、油溶性ノバラエキス、バクガエキス、バクガ根エキス、バクモンドウエキス、パセリエキス、ハダカムギ葉汁濃縮物、蒸留ハッカ水、ハマメリス水、ハマメリス抽出液、バラエキス、パリエタリアエキス、ヒキオコシエキス、ビワ葉エキス、油溶性ビワ葉エキス、フキタンポポエキス、ブクリョウエキス、ブッチャーブルームエキス、ブッチャーブルームエキス末、ブドウエキス、ブドウ葉エキス、ブドウ水、ハイフラワーエキス、ヘチマエキス、ヘチマ水、ベニバナエキス、油溶性ボダイジュエキス、ボダイジュ水、ボタンエキス、ホップエキス、油溶性ホップエキス、マツエキス、マリアアザミエキス、マロニエエキス、油溶性マロニエエキス、ムクロジエキス、メリッサエキス、メリロートエキス、モモ葉エキス、油溶性モモ葉エキス、モヤシエキス、ヤグルマギクエキス、ヤグルマギク水、ユーカリエキス、ユキノシタエキス、ユリエキス、ヨクイニンエキス、油溶性ヨクイニンエキス、ヨモギエキス、ヨモギ水、ラベンダーエキス、ラベンダー水、リングオエキス、レイシエキス、レタスエキス、レモンエキス、レンゲソウエキス、ローズ水、ローズマリーエキス、油溶性ローズマリーエキス、ローマカミツレエキス、ワレモコウエキス等の植物抽出物；

出証特2004-3118153



## 【0041】

グリシン、アラニン、バリン、ロイシン、イソロイシン、セリン、トレオニン、フェニルアラニン、チロシン、トリプトファン、シスチン、システイン、メチオニン、プロリン、ヒドロキシプロリン、アスパラギン酸、アスパラギン、グルタミン酸、グルタミン、アルギニン、ヒスチジン、リシン、 $\gamma$ -アミノ酪酸、DL-ピロリドンカルボン酸、 $\epsilon$ -アミノカプロン酸、加水分解エラスチン、水溶性エラスチン、加水分解コラーゲン、水溶性コラーゲン、カゼイン、グルタチオン、小麦ペプチド、大豆ペプチド等のアミノ酸類及びペプチド類；

## 【0042】

レチノール、レチナール、レチノイン酸、酢酸レチノール、パルミチン酸レチノール等のビタミンA類、 $\alpha$ -カロチン、 $\beta$ -カロチン、 $\gamma$ -カロチン、 $\delta$ -カロチン、リコピン、ゼアキサンチン、クリプトキサンチン、エキネノン、アスタキサンチン等のカロテノイド類、チアミン類等のビタミンB1類、リボフラビン等のビタミンB2類、ピリドキシン、ピリドキサル、ピリドキサミン等のビタミンB6類、シアノコバラミン等のビタミンB12類、葉酸類、ニコチン酸、ニコチン酸アミド、パントテン酸類、ピオチン類、L-アスコルビン酸、L-アスコルビン酸ナトリウム、ステアリン酸L-アスコルビル、パルミチン酸L-アスコルビル、ジパルミチン酸L-アスコルビル、テトライソパルミチン酸L-アスコルビル、L-アスコルビン酸硫酸エステル二ナトリウム、L-アスコルビルマグネシウム、リン酸L-アスコルビルナトリウム、L-アスコルビン酸-2-グルコシド、L-アスコルビン酸-2-リン酸マグネシウム等のビタミンC類、エルゴカルシフェロール、コレカルシフェロール等のビタミンD類、d- $\alpha$ -トコフェロール、DL- $\alpha$ -トコフェロール、酢酸d- $\alpha$ -トコフェロール、コハク酸d- $\alpha$ -トコフェロール、 $\beta$ -トコフェロール、 $\gamma$ -トコフェロール、d- $\delta$ -トコフェロール等のビタミンE類、ユビキノン類、ビタミンK類、カルニチン、フェルラ酸、 $\gamma$ -オリザノール、 $\alpha$ -リポ酸、オロット酸等のビタミン類及びビタミン様作用因子類；

## 【0043】

安息香酸、安息香酸ナトリウム、ウンデシレン酸、サリチル酸、ソルビン酸、ソルビン酸カリウム、デヒドロ酢酸、デヒドロ酢酸ナトリウム、パラオキシ安息香酸イソブチル、パラオキシ安息香酸イソプロピル、パラオキシ安息香酸エチル、パラオキシ安息香酸ブチル、パラオキシ安息香酸プロピル、パラオキシ安息香酸ベンジル、パラオキシ安息香酸メチル、パラオキシ安息香酸メチルナトリウム、フェノキシエタノール、感光素101号、感光素201号、感光素401号等の防腐剤；

## 【0044】

ブチルヒドロキシアニソール、ブチルヒドロキシトルエン、没食子酸プロピル、エリソルビン酸、エリソルビン酸ナトリウム、パラヒドロキシアニソール、没食子酸オクチル等の酸化防止剤；

## 【0045】

エチレンジアミンヒドロキシエチル三酢酸三ナトリウム、エデト酸、エデト酸二ナトリウム、エデト酸三ナトリウム、エデト酸四ナトリウム、クエン酸ナトリウム、グルコン酸、フィチン酸、ポリリン酸ナトリウム、メタリン酸ナトリウム等の金属イオン封鎖剤；

ヒアルロン酸、ヒアルロン酸ナトリウム、コンドロイチン硫酸ナトリウム、乳酸ナトリウム、ピロリドンカルボン酸ナトリウム、ベタイン、乳酸菌培養液、酵母エキス、セラミド等の保湿剤；

グリチルリチン酸、グリチルリチン酸三ナトリウム、グリチルリチン酸ジカリウム、グリチルリチン酸モノアンモニウム、 $\beta$ -グリチルレチン酸、グリチルレチン酸グリセリン、グリチルレチン酸ステアリル、塩化リゾチーム、ヒドロコルチゾン、アラントイン等の抗炎症剤；

## 【0046】

水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、トリエタノールアミン、等のpH調整剤；  
塩化ナトリウム、塩化カリウム、塩化マグネシウム、硫酸ナトリウム、等の塩類；

クエン酸、グリコール酸、酒石酸、乳酸等の $\alpha$ -ヒドロキシ酸類；  
アルブチン、 $\alpha$ -アルブチン、プラセンタエキス等の美白剤；

【0047】

アンゼリカ油、イランイラン油、エレミ油、オレンジ油、カミツレ油、ローマカミツレ油、カルダモン油、カラムス油、ガルバナム油、カンファール油、キャロットシード油、クラーリセージ油、グレープフルーツ油、チョウジ油、ケイヒ油、コリアンダー油、サイプレス油、サンダルウッド油、シダーウッド油、シトロネラ油、シナモンリーフ油、ジャスミンアブソリュート、ジュニバーベリー油、ジンジャーエクストラクト、スベアミント油、セージ油、セダー油、ゼラニウム油、タイム油、ティーツリー油、ナツメグ油、ニアウリ油、ネロリ油、パイン油、バジル油、ハッカ油、パチュリー油、パルマローザ油、フェンネル油、プチグレン油、ブラックペッパー油、フランキンセンス油、ベチバ油、ペパーミント油、ベルガモット油、ベンゾイン油、ボアドローズ油、マジョラム油、マンダリン油、ミルラ油、メリッサ油、ユーカリ油、ゆず油、ライム油、ラベンサラ油、ラバンジン油、ラベンダー油、リンデン油、レモン油、レモングラス油、ローズ油、ローズウッド油、ローズマリー油、ロベージ油等の精油類；

【0048】

リモネン、ピネン、テルピネン、テルピノーレン、ミルセン、ロンギフィーレン等のテルペン類；

香料、水等が挙げられる。

【0049】

さらに本発明の皮膚外用剤には、既存の化粧品原料を一般的な濃度で添加することもできる。例えば、化粧品原料基準第二版注解、日本公定書教会編、1984（薬事日報社）、化粧品原料基準外成分規格、厚生省薬務局審査課監修、1993（薬事日報社）、化粧品原料基準外成分規格追補、厚生省薬務局審査課監修、1993（薬事日報社）、化粧品種別許可基準、厚生省薬務局審査課監修、1993（薬事日報社）、化粧品種別配合成分規格、厚生省薬務局審査課監修、1997（薬事日報社）、化粧品原料辞典、平成3年（日光ケミカルズ）、及び新しい化粧品機能素材300、2002（シーエムシー出版）等に記載されている全ての化粧品原料を使用することができる。

【実施例】

【0050】

以下に、本発明を実施例に基づいて具体的に説明するが、本発明はこれらの実施例に限定されるものではない。

【0051】

実施例1

窒素雰囲気下、十分に乾燥させたシュレンク管内に1, 6-アンヒドロ $\beta$ -D-グルコピラノース（東京化成（株）製、13.0g）の、乾燥したプロピレンカーボネート（アルドリッチ社製、12.5ml）及び66質量% 2-ブチニルテトラメチレンスルフォニウムヘキサフルオロアンチモネート（旭電化工業（株）製、65.8 $\mu$ l）を入れた。次にこのシュレンク管をオイルバスに浸け、オイルバスを100℃に加熱して1, 6-アンヒドロ $\beta$ -D-グルコピラノースをよく溶解させた後、130℃まで昇温して、よく攪拌させながら重合を開始させた。30分間反応後、重合溶液をメタノール中に注ぎ重合を停止させた。溶媒を留去後、水、メタノールで再沈殿を繰り返し、さらに透析して精製し、凍結乾燥によって、白色粉末の多分岐多糖A（5.3g）を得た。収率は41%であった。この多分岐多糖Aの構造は $^1\text{H-NMR}$ 及び $^{13}\text{C-NMR}$ でその構造を確認した。また、重量平均分子量は2000（光散乱法）、分岐度は0.38であった。

【0052】

実施例2

表1に示す化粧水を常法に基づき作製した。これを20歳から30歳の女性10人が使用して、塗布直後と湿度20%で1時間経過した後の感想を表2に示す。多分岐多糖Aを含むサンプル1-1を使用することで、塗布直後と乾燥後に潤い感が維持でき、乾燥後に

ツッパリ感が生じないことが示された。

【0053】

【表1】

サンプル	1-1	1-2	1-3
多分岐多糖A	0.50%	—	—
グリコーゲン	—	0.50%	—
1, 3-ブチレングリコール	5.00%	5.00%	5.00%
エチルアルコール	5.00%	5.00%	5.00%
クエン酸	0.01%	0.01%	0.01%
クエン酸ナトリウム	1.00%	1.00%	1.00%
メチルパラベン	0.20%	0.20%	0.20%
精製水	88.29%	88.29%	88.79%
	100.00%	100.00%	100.00%

【0054】

【表2】

サンプル	1-1	1-2	1-3
塗布直後の潤い感	9	8	2
乾燥後の潤い感	8	4	0
塗布直後のツッパリ感	0	0	0
乾燥後のツッパリ感	1	6	9

【0055】

実施例3

表1に示す化粧水を30歳～40歳の女性3名の前腕屈側部に朝夕1日2回、7日間塗布した。8日目朝の角質水分量を、インピーダンスメーター（IBS社製、SKICON-200）を用いた高周波インダクタンス法による伝導度測定値を指標に比較した結果を表3に示す。多分岐多糖A含むサンプル1-1を使用することで伝導度の向上が見られ、角質水分量が増大して肌の潤いが増すことが示された。

【0056】

【表3】

	塗布前	1-1塗布	1-2塗布	1-3塗布
伝導度	100	183	175	118

【0057】

実施例4

表4に示す化粧水を常法に基づき作製した。これを実施例3と同様に塗布して、8日目朝の角質水分量を、インピーダンスメーターを用いた高周波インダクタンス法による伝導度測定値を指標に比較した結果を表5に示す。多分岐多糖Aを含むサンプル2-1を使用することで伝導度の向上が見られ、角質水分量が増大して肌の潤いが増すことが示された。

【0058】

【表 4】

サンプル	2-1	2-2	2-3
多分岐多糖A	0.5%	—	—
グリシン	—	0.5%	—
1, 3-ブチレングリコール	9.5%	9.5%	9.5%
エチルアルコール	39.6%	39.6%	39.6%
ヒマシ油	4.9%	4.9%	4.9%
メチルパラベン	0.2%	0.2%	0.2%
精製水	45.3%	45.3%	45.8%
	100.0%	100.0%	100.0%

【0059】

【表 5】

	塗布前	2-1塗布	2-2塗布	2-3塗布
伝導度	100	189	145	125

【0060】

## 実施例 5

表 6 に示す乳液を常法に基づき作製した。これを 20 歳から 30 歳の女性 10 人が使用して、塗布直後と湿度 20 % で 1 時間過ごした後の感想を表 7 に示す。多分岐多糖 A を含むサンプル 3-1 を使用することで、塗布直後と乾燥後に潤い感が維持でき、乾燥後にツッパリ感が生じないことが示された。

【0061】

【表 6】

サンプル	3-1	3-2	3-3
多分岐多糖A	1.0%	—	—
ヒドロキシエチルセルロース	—	0.5%	—
キサントガム	—	0.5%	—
グリセリン	8.0%	8.0%	8.0%
1, 3-ブチレングリコール	2.0%	2.0%	2.0%
クエン酸ナトリウム	1.0%	1.0%	1.0%
ポリエチレングリコール-50	0.5%	0.5%	0.5%
メチルパラベン	0.2%	0.2%	0.2%
精製水	87.3%	87.3%	88.3%
	100.0%	100.0%	100.0%

【0062】

【表 7】

サンプル	3-1	3-2	3-3
塗布直後の潤い感	9	8	5
乾燥後の潤い感	7	5	0
塗布直後のツツパリ感	0	0	1
乾燥後のツツパリ感	1	7	6

## 【0063】

## 実施例 6

表 6 に示す化粧水を実施例 3 と同様に塗布して、8 日目朝の角質水分量を、インピーダンスメーターを用いた高周波インダクタンス法による伝導度測定値を指標に比較した結果を表 8 に示す。多分岐多糖 A を含むサンプル 3-1 を使用することで伝導度の向上が見られ、角質水分量が増大して肌の潤いが増すことが示された。

## 【0064】

【表 8】

	塗布前	3-1 塗布	3-2 塗布	3-3 塗布
伝導度	100	192	178	125

## 【0065】

## 実施例 7

窒素雰囲気下、十分に乾燥させたフラスコ内に多分岐多糖 A (1.0 g) と乾燥ピリジンを入れた。ここにロイシンエチルエステルイソシアナート (11.5 g) をゆっくりと滴下して、100℃で24時間反応させた。反応後、反応溶液をメタノール中に注ぎ、溶媒を留去後、水、メタノールで再沈殿を繰り返し、さらに透析して精製し、凍結乾燥によって、白色粉末の多分岐多糖誘導体 B (1.96 g) を得た。元素分析の結果、置換度は 2.9 であった。

## 【0066】

## 実施例 8

表 9 に示す乳液を常法に基づき作製した。これを 20 歳から 30 歳の女性 10 人が使用して、塗布直後と湿度 20% で 1 時間過ごした後の感想を表 10 に示す。多分岐多糖誘導体 B を含むサンプル 4-1 を使用することで、塗布直後と乾燥後に潤い感が維持でき、乾燥後にツツパリ感が生じないことが示された。

## 【0067】

【表 9】

サンプル	4-1	4-2	4-3
多分岐多糖誘導体B	1.0%	—	—
ヒドロキシエチルセルロース	—	0.5%	—
キサントガム	—	0.5%	—
グリセリン	8.0%	8.0%	8.0%
1, 3-ブチレングリコール	2.0%	2.0%	2.0%
クエン酸ナトリウム	1.0%	1.0%	1.0%
ポリエチレングリコール-50	0.5%	0.5%	0.5%
メチルパラベン	0.2%	0.2%	0.2%
精製水	87.3%	87.3%	88.3%
	100.0%	100.0%	100.0%

【0068】

【表 10】

サンプル	4-1	4-2	4-3
塗布直後の潤い感	9	8	5
乾燥後の潤い感	6	5	0
塗布直後のツツパリ感	0	0	1
乾燥後のツツパリ感	1	7	6

【0069】

## 実施例 9

窒素雰囲気下、十分に乾燥させたシュレンク管内に 1, 6-アンヒドロ- $\beta$ -D-マンノピラノース (1.7 g) 及び乾燥させたプロピレンカーボネート (3.5 ml) を入れた。次にこのシュレンク管をオイルバスに浸け、オイルバスを 90℃ に加熱して 1, 6-アンヒドロ- $\beta$ -D-マンノピラノースをよく溶解させた後、66 質量% 3-メチル-2-ブチニルテトラメチレンスルフォニウムヘキサフルオロアンチモネート (11.4  $\mu$ l) を添加して重合を開始させた。20 分間反応後、重合溶液をメタノール中に注ぎ重合を停止させた。溶媒を留去後、水、アセトンで再沈殿を繰り返し、さらに透析して精製し、凍結乾燥によって、白色粉末の多分岐多糖 C (1.11 g) を得た。収率は 64% であった。この多分岐多糖 C の構造は  $^1\text{H-NMR}$  及び  $^{13}\text{C-NMR}$  でその構造を確認した。また、重量平均分子量は 80000 (光散乱法)、分岐度は 0.43 であった。

【0070】

## 実施例 10

表 11 に示す化粧水を常法に基づき作製した。これを 20 歳から 30 歳の女性 10 人が使用して、塗布直後と湿度 20% で 1 時間過ごした後の感想を表 12 に示す。多分岐多糖 C を含むサンプル 5-1 を使用することで、塗布直後と乾燥後に潤い感が維持でき、乾燥後にツツパリ感が生じないことが示された。

【0071】

【表 11】

サンプル	5-1	5-2	5-3
多分岐多糖C	0.50%	—	—
グリコーゲン	—	0.50%	—
1, 3-ブチレンジグリコール	5.00%	5.00%	5.00%
エチルアルコール	5.00%	5.00%	5.00%
クエン酸	0.01%	0.01%	0.01%
クエン酸ナトリウム	1.00%	1.00%	1.00%
メチルパラベン	0.20%	0.20%	0.20%
精製水	88.29%	88.29%	88.79%
	100.00%	100.00%	100.00%

【0072】

【表 12】

サンプル	5-1	5-2	5-3
塗布直後の潤い感	10	8	2
乾燥後の潤い感	8	4	0
塗布直後のツツパリ感	0	0	0
乾燥後のツツパリ感	0	6	9

## 【産業上の利用可能性】

## 【0073】

以上のように、皮膚外用剤に対して多分岐多糖及び／または多分岐多糖誘導体を少量配合した本発明によれば、皮膚に十分な潤い感を与え、不快なツツパリ感が出ない効果のある優れた皮膚外用剤を提供することができる。

【書類名】要約書

【要約】

【課題】 皮膚に潤いと張りを十分に与える皮膚外用剤を提供する。

【解決手段】 糖類を構成単位とする多分岐多糖を骨格とし、前記多分岐多糖の水酸基（OH）の少なくとも一つがOR（Rは、水素原子、炭素数1～30の炭化水素、またはヘテロ原子を有する炭素数1～30の炭化水素を表わす。）で置換された多分岐多糖誘導体を含有することを特徴とする皮膚外用剤、及びその皮膚外用剤を含有してなる化粧料。

【選択図】 なし



## 認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2004-105929
受付番号	50400546666
書類名	特許願
担当官	第五担当上席 0094
作成日	平成 16 年 4 月 6 日

## &lt;認定情報・付加情報&gt;

## 【特許出願人】

【識別番号】	000002004
【住所又は居所】	東京都港区芝大門 1 丁目 13 番 9 号
【氏名又は名称】	昭和電工株式会社

## 【代理人】

申請人

【識別番号】	100081086
【住所又は居所】	東京都中央区日本橋人形町 2 丁目 2 番 6 号 堀口 第 2 ビル 7 階 大家特許事務所
【氏名又は名称】	大家 邦久

## 【代理人】

【識別番号】	100117732
【住所又は居所】	東京都中央区日本橋人形町 2 丁目 2 番 6 号 堀口 第二ビル 7 階 大家特許事務所
【氏名又は名称】	小澤 信彦

## 【代理人】

【識別番号】	100121050
【住所又は居所】	東京都中央区日本橋人形町 2 丁目 2 番 6 号 堀口 第 2 ビル 7 階 大家特許事務所
【氏名又は名称】	林 篤史

特願2004-105929

出願人履歴情報

識別番号

[000002004]

1. 変更年月日  
[変更理由]  
住所  
氏名

1990年 8月27日  
新規登録  
東京都港区芝大門1丁目13番9号  
昭和電工株式会社

From the INTERNATIONAL BUREAU

**PCT**NOTIFICATION CONCERNING  
SUBMISSION OR TRANSMITTAL  
OF PRIORITY DOCUMENT

(PCT Administrative Instructions, Section 411)

To:

OHIE, Kunihisa  
Ohie Patent Office  
Selva-Ningyocho 6F  
14-6, Nihonbashi-Ningyocho  
2-chome, Chuo-Ku  
Tokyo 103-0013  
JAPON

Date of mailing (day/month/year) 07 June 2005 (07.06.2005)	
Applicant's or agent's file reference SDF-5321PCT	<b>IMPORTANT NOTIFICATION</b>
International application No. PCT/JP05/006411	International filing date (day/month/year) 25 March 2005 (25.03.2005)
International publication date (day/month/year)	Priority date (day/month/year) 31 March 2004 (31.03.2004)
Applicant SHOWA DENKO K.K. et al	

- By means of this Form, which replaces any previously issued notification concerning submission or transmittal of priority documents, the applicant is hereby notified of the date of receipt by the International Bureau of the priority document(s) relating to all earlier application(s) whose priority is claimed. Unless otherwise indicated by the letters "NR", in the right-hand column or by an asterisk appearing next to a date of receipt, the priority document concerned was submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b).
- (If applicable) The letters "NR" appearing in the right-hand column denote a priority document which, on the date of mailing of this Form, had not yet been received by the International Bureau under Rule 17.1(a) or (b). Where, under Rule 17.1(a), the priority document must be submitted by the applicant to the receiving Office or the International Bureau, but the applicant fails to submit the priority document within the applicable time limit under that Rule, the attention of the applicant is directed to Rule 17.1(c) which provides that no designated Office may disregard the priority claim concerned before giving the applicant an opportunity, upon entry into the national phase, to furnish the priority document within a time limit which is reasonable under the circumstances.
- (If applicable) An asterisk (\*) appearing next to a date of receipt, in the right-hand column, denotes a priority document submitted or transmitted to the International Bureau but not in compliance with Rule 17.1(a) or (b) (the priority document was received after the time limit prescribed in Rule 17.1(a) or the request to prepare and transmit the priority document was submitted to the receiving Office after the applicable time limit under Rule 17.1(b)). Even though the priority document was not furnished in compliance with Rule 17.1(a) or (b), the International Bureau will nevertheless transmit a copy of the document to the designated Offices, for their consideration. In case such a copy is not accepted by the designated Office as the priority document, Rule 17.1(c) provides that no designated Office may disregard the priority claim concerned before giving the applicant an opportunity, upon entry into the national phase, to furnish the priority document within a time limit which is reasonable under the circumstances.

<u>Priority date</u>	<u>Priority application No.</u>	<u>Country or regional Office or PCT receiving Office</u>	<u>Date of receipt of priority document</u>
31 March 2004 (31.03.2004)	2004-105929	JP	14 April 2005 (14.04.2005)
09 April 2004 (09.04.2004)	60/560,607	US	14 April 2005 (14.04.2005)

The International Bureau of WIPO  
34, chemin des Colombettes  
1211 Geneva 20, Switzerland

Authorized officer

Moussa Huynh

Facsimile No. +41 22 740 14 35

Facsimile No. +41 22 338 90 90  
Telephone No. +41 22 338 7059